

建築工事特記仕様書

第1 工事概要
1 工事項目 令和??年度 [第?-?????-01号] ○○工事
2 工事場所 沼津市 区・町 地内
3 敷地面積 m2
4 都市計画 都市計画区域内 準都市計画区域内 都市計画区域外
5 用途地域
6 防火地域
7 その他の地域・地区

第2 仕様
1 図面及び特記仕様に記載されていない事項は、国土交通省大臣官房官営部制定の「公共建築工事標準工事標準仕様書(建築工事編)令和4年版」(以下「標準仕様書」という。)によるほか、下記仕様書のうち、○印を付いたものを適用する。

第3 電子納品等
1 納品の仕様等は「沼津市電子納品要領」による。
2 発注する設計図(CADデータ)の有無
3 発注するCADデータの使用範囲

第4 各章共通事項
1 工事実績情報システム(CORINS)への登録
2 工事の一時中止
3 各工種の施工計画
4 施工図等の取扱い
5 設備工事との取合い
6 電気保安技術者
7 発生材の処理等
8 産業廃棄物管理票

9 建設副産物情報交換システム
本工事の情報を「建設副産物情報交換システム(COBRIS)」へ登録するものとし、総合施工計画書作成時、工事完了時及び登録情報に変更が生じた場合には、それぞれ速やかにデータ入力を行う。

10 特定建設資材の処理
本工事は、「建設工事に係る資材の再資源化等に関する法律」第9条による分別解体等実施義務の対象建設工事となることと想定されるため、同法に基づき分別解体等及び特定建設資材廃棄物の再資源化等の実施について適切な措置を講ずることをする。

Table with 3 columns: 工程, 作業内容, 分別解体等の方法. Rows include 1.建築設備, 2.屋根ふき材, 3.外装材, 4.基礎, 5.その他, 6.特定建設資材廃棄物の種類, etc.

11 環境への配慮
建築物内部に使用する材料等は、設計図書に所要の品質及び性能を有すると共に、次のアからエを満たすものとする。

12 材料の品質等
(1)本工事に使用する材料は、設計図書に定める品質及び性能の他、通常有すべき品質及び性能を有するものとする。

13 材料の検査等
現場に搬入したすべての材料について、自主検査記録(任意様式)を提出する。ただし、次表に掲げる材料については監督職員の検査を受ける。

Table with 3 columns: 材料名称, 仮設工事, 土工事, 地業工事, 鉄筋工事, コンクリート工事, 鉄骨工事, コンクリート/その他工事, 左官工事, 建具工事, 仮設工事, 土工事, 地業工事, 鉄筋工事, コンクリート工事, 鉄骨工事, コンクリート/その他工事, 左官工事, 建具工事, 仮設工事, 土工事, 地業工事, 鉄筋工事, コンクリート工事, 鉄骨工事, コンクリート/その他工事, 左官工事, 建具工事.

監督職員の検査を受けて使用すべきとされた材料であっても、設計図書に定めるJIS又はJASのマーク表示のある材料並びに規格、基準等の規格証明書が添付された材料で、監督職員の承諾を受けた場合は、設計図書に定める品質及び性能を有するものとして、取り扱うことができる。

14 地場産品
静岡県中小企業の受注者機会の増大による地域経済の活性化に関する条例に基づき地場産品の使用促進を図ることと地域経済の活性化に寄与することを目的とする。

Table with 3 columns: 工事種目, 技能検定制種, 技能検定制種. Rows include 仮設工事, 土工事, 地業工事, 鉄筋工事, コンクリート工事, 鉄骨工事, 仮設工事, 土工事, 地業工事, 鉄筋工事, コンクリート工事, 鉄骨工事, コンクリート/その他工事, 左官工事, 建具工事, 仮設工事, 土工事, 地業工事, 鉄筋工事, コンクリート工事, 鉄骨工事, コンクリート/その他工事, 左官工事, 建具工事.

16 化学物質の濃度測定
施工完了後、完成届の提出前に次により室内空気中の化学物質の濃度を測定し、測定結果を監督職員に報告する。

17 検査
中間検査 対象工事 (実施は中間検査実施基準による) 対象外工事

18 重機類
完成機型 低振動型 低振動型 指定無し

19 完成時の提出図書
設計GL 設計GL 図示

20 既存部の汚損等
工事施工に際し、既存部分に汚損又は損傷した場合は、構造、仕上げ共、既存ならぬ補修する。

21 事故報告
工事施工中に事故が発生した場合には、直ちに監督職員に通報するとともに、事故発生報告書を監督職員に速やかに提出すること。

22 異常気象時の報告
異常気象時(大雨警報、暴風警報、大雪警報)及び震度4以上の地震発生時には、現場点検を行い速やかに監督職員に報告する。

23 公共事業労務費調査に対する協力
受注者は、当該工事が発注者の実施する公共事業労務費調査の対象工事となった場合には、以下の各号に掲げる協力を行わなければならない。

2章 仮設工事
1 足場等
内部足場の種別 脚立、足場板等
外部足場の種別 格組足場、くさび緊結式足場、単管本足場

2 監督職員事務所
規模、仕様 10㎡程度 既存建物利用
備品等(標準仕様書によるほか下記による)

3 監理事務所
規模、仕様 10㎡程度 既存建物利用
備品等

4 工事用水
構内既存の施設 利用できる
排水工事 配管

5 工事用電力
構内既存の施設 利用できる
照明器具

11 流動化コンクリート (6.15.1) 適用箇所 図示による

12 打継ぎの位置、ひび割れ誘発目地、打継目地 (6.6.4)(6.8.1)(9.7.3) 打継ぎの位置 標準仕様書6.6.4(1)による 目地寸法 標準仕様書9.7.3(1)(7)による ひび割れ誘発目地の位置・形状・寸法 図示

13 構造体コンクリートの仕上げ (6.2.5) 合せき板を用いるコンクリートの打放し仕上げ 種類 適用箇所 A種 B種 C種

コンクリート仕上りの平たんさ 種類 適用箇所 a種 b種 c種

14 打増し厚さ(打放し仕上げ部) (6.8.1) 打放し仕上げの打増し厚さ(外部に面する部分に限る) 20mm 打放し仕上げの打増し厚さ(内部に面する部分に限る) 10mm 20mm

15 型枠 (6.8.2) せき板の材料及び厚さ 合板[G] 12mm 断熱材を兼用した型枠材 使用箇所 図示 MCR工法用シート 適用箇所 図示 打増し厚さ 20mm 打増し範囲 図示による シートの材種・規格等 図示

16 コンクリートの単位水量測定 (6.8.2) 実施要領 図示

17 耐震スリット (6.8.2) 方向 タイプ 耐火性能 防水性能 備考 垂直方向 完全(全貫通型) 耐火型 有り 水平方向 非耐火型 無し

目地(目地材の材質は標準仕様書9.7.1による) 目地 内壁 外壁 目地材 シート材(見え掛り部のみ) シート材(見え掛り部のみ) 目地寸法(mm) 幅20×深さ10 幅20×深さ10 施工箇所 図示

18 止水板 (6.8.2) 形式 差込式 据置式 壁張り式 施工工法 図示

7章 鉄骨工事 (7.1.3) 1 鉄骨の製作工場 建築基準法第68条の25に基づき国土交通大臣から構造方法等の認定を取得している鉄骨製作工場又は同等以上の能力のある工場()グレード以上 監督職員の承諾する製作工場

2 鉄骨製作工場における施工管理技術者 (7.1.4) 配置する 配置しない

3 鋼材 (7.2.1)(7.2.10) 種類等 種類の記号 適用箇所(主要な部分) 規格

Table with 3 columns: 種類の記号, 適用箇所(主要な部分), 規格. Rows include JIS B 1180 and JIS B 1256.

4 高力ボルト (7.2.2)(7.3.2)(7.4.2)(7.12.5) ボルトの種類 トリプル高力ボルト JIS高力ボルト ボルトの縁端距離、ボルトの間隔、ゲージ等 図示 摩擦面の処理方法 標準仕様書7.4.2(1)による

ナベリ試験の実施 ナベリ係数試験 ナベリ耐力試験 ナベリ試験を実施する場合、標準仕様書7.4.2(1)(イ)による摩擦面の確認は、本試験で作成した対比試験片で行うこと。

5 普通ボルト (7.2.3)(7.3.2)(7.3.8) ボルト及びワットの材料 標準仕様書7.2.3(JIS付属書品)又は次による ボルトの規格は、JIS B 1180とする ボルトの種類は、呼び径六角ボルト又は全ねじ六角ボルトとし、材料は鋼とする ボルトの強度区分は、4.6又は4.8とする。なお、呼び径六角ボルトの軸径の最大寸法は、ボルト径の値以下とする ワットの規格は、JIS B 1181とする ワットの種類は、六角ナットCとし、材料は鋼とする

座金 JIS B 1256による ボルトの縁端距離、ボルトの間隔、ゲージ等 図示による 母皿又は縁縁の取付に使用するボルトの孔径 ねじの呼び径+1.0mm

6 溶融亜鉛めっき高力ボルト (7.3.2)(7.4.2)(7.12.5) ボルトの縁端距離、ボルトの間隔、ゲージ等 図示による 摩擦面の処理方法 フラス処理(表面粗度50µmRz以上) りん酸塩処理

ナベリ試験の実施 ナベリ係数試験 ナベリ耐力試験 ナベリ試験を実施する場合、標準仕様書7.12.5(1)(7)又は(イ)による摩擦面の確認は、本試験で作成した対比試験片で行うこと。

7 アンカーボルト (7.2.4)(7.3.2) 構造用アンカーボルト 種類 ABR400 ABR490 建方用アンカーボルト 種類 SS400 標準仕様書7.2.4以外のアンカーボルト 適用箇所 図示 種類 SS400 標準仕様書7.2.3による

ボルトの縁端距離、ボルトの間隔、ゲージ等 図示

8 溶接材料 (7.2.5) 標準仕様書7.2.5(1)(2)による。

9 ターンバックル (7.2.6) 種類 建築用ターンバックルボルト 羽子板ボルト 建築用ターンバックル鋼 割棒式 ねじの呼び 図示

10 床構造用のデッキプレート (7.2.7)(7.7.8) 材質、形状及び寸法 備考

Table with 4 columns: 種類, 適用箇所, 材質、形状、寸法, 備考. Rows include デッキプレート単独の構法 and デッキプレートとコンクリートとの合成スラブとする構法.

開口部補強要領(補筋筋の定着長さ等を含む) 図示による 鉄骨部材への溶接方法 図示による 耐火認定 有り 無し 耐火時間 図示による

11 スタッド (7.2.8) 呼び名 呼び長さ(mm) 適用箇所 16 19 22

12 柱底均しモルタル (7.2.9) 無収縮モルタルとする場合の材料、割合等 標準仕様書7.2.9(2)(7)から(4)による

13 製作精度 (7.3.3) 鉄骨の製作精度は、JASS 6 付則6【鉄骨精度検査基準】に加えて、次による 通りゲージの突合せ継手の食い違いの寸法 H12建物第1464号第二号(2)による

アンカーボルトの寸法 H12建物第1464号第二号(3)による 食い違い・仕口のずれの検査方法及び補強方法 「突合せ継手の食い違い仕口のずれの検査・補強方法」による

14 仮組 (7.3.10) 仮組を行う範囲 図示による

15 溶接作業における技能資格者の技量付加試験 (7.6.3) 溶接作業者の技量付加試験 行わない 行う 試験の要領 図示

16 溶接接合 (7.6.4)(7.6.7) 開先の形状 図示による 鋼製スリットを切断する部分 切断箇所 図示 切断範囲 鋼製スリット、裏当て金等は、梁スリットの端から5mm以下を残して直線上に切断する。なお、切断線が交差する場合は、交差部を円弧状に加工する。

切断面の仕上げ 標準仕様書7.6.7(1)(4)(b)による ストップの形状 図示 固形フラックスの使用 固形フラックスを使用する場合はAW検定技能会議の実施する認定試験の合格者若しくは、日本エンドウ協会の実施する施工講習会受講者が施工すること。 低応力高耐力疲労をうける部位 有り 位置 図示

17 入熱、ハス間温度の溶接条件 (7.6.7)(7.6.10) 鋼材と溶接材料の組合せと溶接条件 図示 適用箇所 図示 柱、梁、ブレースのフランジ 端部の完全溶込み溶接部

18 溶接部の試験 (7.6.12) 平12建物第1464号第二号に関する外観試験方法 「突合せ溶接継手の食い違い仕口のずれの検査・補強方法」 3.5.2 受入検査による 抜き取り検査① 抜き取り検査②

JASS 6 付則 6 【鉄骨精度検査基準】の付表3「溶接」に関する試験方法等 JASS 6 10.4 【受入検査】e. 溶接部の外観検査(1)から(5)までによる。ただし、完全溶込み溶接部の外観検査の抜取箇所は、超音波探傷試験の試験箇所と同一とする。外観試験不合格箇所は、全て標準仕様書7.6.13による補修を行い、再試験する。

完全溶け込み部の超音波探傷試験 行う 行わない 工場溶接の場合 AOQL(%) 4.0 2.5 箇所 全て 検査水準 第6水準 工事現場溶接の場合 全て

19 錆止め塗装 (7.8.2, 4)(18.3.2) 塗装の範囲 耐火被覆材の接着する面の塗装範囲 図示 耐火被覆材の接着する面以外の塗装範囲 標準仕様書7.8.2(1)(7)～(9)による

塗料の種類 下記以外の鉄鋼面は、18章【塗装工事】による 鉄骨鉄筋コンクリート造の鋼製スリーブで鉄骨に溶接されたものの内側の錆止め塗料の種類 A種 耐火被覆材が溶接する面の塗料の種類

20 耐火被覆 (7.9.2)～(7.9.8) 種類、材料、工法等 種類 材料・工法 性能(耐火時間) 適用箇所(部位・部分)

Table with 4 columns: 種類, 材料・工法, 性能(耐火時間), 適用箇所(部位・部分). Rows include 耐火材吹付け, 耐火板張り, 耐火材巻付け, ラミネート被覆, 耐火塗料.

21 アンカーボルトの設置等 (7.10.3) 構造用アンカーボルトの形状及び寸法 図示による 構造用アンカーボルトの形状及び寸法 図示による 建方用アンカーボルトの形状及び寸法 図示による 建方用アンカーボルトの保持及び埋込み工法 種類 A種 B種 柱底均しモルタルの厚さ及び工法の種類 厚さ 種類 A種 B種

22 軽量形鋼構造 (7.11.2) ボルトの接合部 普通ボルト接合

8章 コンクリートブロック・ALCパネル・押出成形セメント板工事 (8.2.2)(8.2.3)(8.2.5)(8.2.7)(8.2.8) 1 補強コンクリートブロック造 (8.2.2)(8.2.3) プログの種類等

Table with 7 columns: 断面形状及び圧縮強さによる区分, 正味厚さ(mm), 呼び寸法(mm), 化粧の有無, 適用箇所, 備考. Rows include 空洞ブロック(16), 型枠状ブロック 20.

モルタルの割合(容積比) 表8.2.1による セメント() : 砂() 各部の配筋 図示 目地仕上げ 押し目地仕上げ 化粧目地仕上げ まくさを受ける開口部両側のブロックのモルタル又はコンクリートで充填する範囲 図示

2 コンクリートブロック壁壁及び壁 (8.3.2)～(8.3.4) プログの種類等

Table with 7 columns: 断面形状及び圧縮強さによる区分, 正味厚さ(mm), 呼び寸法(mm), 化粧の有無, (表8.3.1)以外の適用箇所, 備考. Rows include 空洞ブロック(16), 型枠状ブロック 20.

モルタルの割合(容積比) 表8.2.1による セメント() : 砂() 壁に用いるブロックの正味厚さ(mm) 壁の高さが2m以下 2mを超え 壁鉄筋の継手、定着及び末端部の折り曲げ形状 図示 各部の配筋 図示

3 ALCパネル (8.4.2)～(8.4.5) ALCパネルの区分等

Table with 7 columns: 区分, 単位荷重(N/mm2), 厚さ(mm), 幅及び長さ, 耐火時間(時間), 構法の種類. Rows include 外壁, 間仕切り壁, 壁, 屋根用, 床用.

パネルの相互の接合部に挿入する耐火目地材 外壁、屋根パネルの工法 1章 適用区分による風圧力の (1) 1.15 (1.3) 倍の耐風圧性能 外壁パネル構法及び間仕切り壁パネル構法における耐震性能 建築非構造部材の耐震性能に係る特記事項による

パネルの最小限度を300mm未満とする場合 図示 目地幅(mm) (パネル短辺小口相互の接合部、外壁、間仕切り壁の出隅及び入隅の接合部並びにパネルと他部材との接合部) 10～20 外壁、間仕切り壁パネルの伸縮目地への耐火目地材の充填 適用する 適用しない

4 押出成形セメント板(ECP) (8.5.2)～(8.5.5) ECPの種類等

Table with 5 columns: 種類, 形状, 厚さ(mm), 幅(mm), 工法の種類. Rows include 外壁, 間仕切り壁.

外壁パネルの工法における耐風圧性能 1章 適用区分による風圧力の (1) 1.15 (1.3) 倍の耐風圧性能 外壁パネル構法及び間仕切り壁パネル構法における耐震性能 建築非構造部材の耐震性能に係る特記事項による

パネルの最小限度を300mm未満とする場合 あり パネル相互の目地幅(mm) 長辺() 短辺() 出隅及び入隅の接合部目地の目地幅(mm) 15程度 耐火構造以外の目地及び隙間の処理 図示 製造所の仕様 やむを得ず欠き込み等を行う場合は、下表の寸法を限度とし、欠損部分を考慮した強度を確認した資料を提出する。

Table with 4 columns: 欠き込みの長さ, 欠き込みの幅, 欠き込みの深さ, 欠き込みの位置. Rows include 短辺, 長辺.

9章 防水工事 (9.2.2)～(9.2.5)(表9.2.3)～(表9.2.9) 1 アスファルト防水 (9.2.2)～(9.2.5)(表9.2.3)～(表9.2.9) 【屋根保護防水】 防水層の種類

Table with 4 columns: 種類, 施工箇所, 断熱材[G], 絶縁用シート. Rows include A-1 to A-3, B-1 to B-2, AI-1 to AI-3, BI-1 to BI-2.

改質アスファルト樹脂フィングシートの種類及び厚さ 標準仕様書表9.2.3から表9.2.4による JIA A 6013に基づく種類及び厚さ

用途による区分 非露出単層防水用 非露出複層防水用 材料による区分 R種 厚さ(mm以上) :

部分粘着層付改質アスファルト樹脂フィングシートの種類及び厚さ 標準仕様書表9.2.5から表9.2.8による JIA A 6013に基づく種類及び厚さ

用途による区分 非露出単層防水用 非露出複層防水用 材料による区分 R種 厚さ(mm以上) :

立上り部への断熱材及び絶縁シート 設置しない 設置する 平場の保護コンクリートの厚さ 土仕上げ 水下80mm以上 床材張り 水下60mm以上

立上りの保護工法 乾式保護材(品質・性能、試験方法は別表による) 営業系パネルI類 厚さ(mm) : 幅(mm) :

【屋根露出防水】 防水層の種類

Table with 5 columns: 種類, 施工箇所, 断熱材[G], 種類, 仕上塗料, 使用量, 高日射反射率防水の適用[G]. Rows include D-1, D-2, DI-1, DI-2.

改質アスファルト樹脂フィングシートの種類及び厚さ 標準仕様書表9.2.8による JIA A 6013に基づく種類及び厚さ

用途による区分 露出単層防水用 露出複層防水用 材料による区分 R種 厚さ(mm以上) :

部分粘着層付改質アスファルト樹脂フィングシートの種類及び厚さ 標準仕様書表9.2.7から表9.2.8による JIA A 6013に基づく種類及び厚さ

用途による区分 露出単層防水用 露出複層防水用 材料による区分 R種 厚さ(mm以上) :

絶縁断熱工法及びパネルの回り及び立上り部周辺の断熱材の張りじまい位置 図示 絶縁工法及び絶縁断熱工法の脱気装置の種類及び設置数量 種類 アスファルト樹脂フィング類の製造所の指定 設置数量 アスファルト樹脂フィング類の製造所の指定 () 個

【屋内防水】 防水層の種類

Table with 4 columns: 種類, 施工箇所, 種類, 施工箇所. Rows include E-1, E-2.

保護層 設ける 図示 設けない E-1の工程3を行う部位 貯水槽、浴槽等常時水に接する部位 防水層の目の立上り コンクリート打放し仕上げ 標準仕様書表6.2.4【打放し仕上げ種別】のB種

立上り部の押え金物の材質、形状及び寸法 78mmφ鋼 L=30×15×2.0mm 防水層の下地のモルタル塗り 適用する 施工範囲 図示 適用しない 屋上排水溝 図示

2 改質アスファルトシート防水 (9.3.2)(9.3.3)(表9.3.1)～(表9.3.3) 防水層の種類

Table with 5 columns: 種類, 施工箇所, 断熱材[G], 防湿用シート, 仕上塗料, 使用量, 高日射反射率防水の適用[G]. Rows include AS-T1 to AS-T4, ASI-T1, ASI-J1.

改質アスファルト樹脂フィングシートの種類及び厚さ 標準仕様書表9.3.1から表9.3.3による JIA A 6013に基づく種類及び厚さ

用途による区分 R種 材料による区分 R種 厚さ(mm以上) :

粘着層付改質アスファルト樹脂フィングシートの種類及び厚さ 標準仕様書表9.3.2から表9.3.3による JIA A 6013に基づく種類及び厚さ

用途による区分 R種 材料による区分 R種 厚さ(mm以上) :

・ JAS 0701以外の造作用単板積層材

施工箇所	寸法 (mm)	表面の品質	含水率	防虫処理	間伐材等の適用
			※14%以下	・適用する ・適用しない	・有 ・無
			※14%以下	・適用する ・適用しない	・有 ・無

・ JAS 30791に基づく直交集成板 [G]

施工箇所	品名	強度等級	種別	接着性能 (使用環境)	樹種名	寸法 (mm)	間伐材等の適用
							・有 ・無 ・有 ・無 ・有 ・無

5 合板等 (12. 2. 1)

・ 「合板の日本農林規格」による普通合板 [G]

施工箇所	厚さ (mm)	単板の樹種名	接着の程度	板面の品質	防虫処理	間伐材等の適用
	5.5		※1類 ・2類	広葉樹 針葉樹	※2以上 C-D以上	・1等 ・有 ・適用する ・適用しない ・無

・ 「合板の日本農林規格」による構造用合板 [G]

施工箇所	等級	単板の樹種名	接着の程度	板面の品質	厚さ (mm)	防虫処理	強度等級	防虫処理	間伐材等の適用
	※2級以上 ・1級		※1類 ・特類	※C-D以上	※12	・有 ・無	()	・適用する ・適用しない ・無	・有 ・無

・ 「合板の日本農林規格」による化粧り構造用合板

施工箇所	厚さ (mm)	単板の樹種名	接着の程度	防虫処理	間伐材等の適用
			・1類 ・特類	・適用する ・適用しない ・無	・有 ・無

・ 「合板の日本農林規格」による天然化粧化粧合板

施工箇所	化粧板に使用する単板の樹種名	厚さ (mm)	接着の程度	防虫処理
			・1類 ・2類	・適用する ・適用しない ・無

・ 「合板の日本農林規格」による特殊加工化粧合板

施工箇所	厚さ (mm)	接着の程度	単板の樹種名	化粧加工の方法	防虫処理
		・1類 ・2類			・適用する ・適用しない ・無

・ ベニヤ板 [G]

施工箇所	表裏面の状態による区分	曲げ強さによる区分	耐水性による区分	難燃性による区分	厚さ (mm)
		※13タイプ	※P又はM		※15
		※13タイプ	※P又はM		※15

・ JAS 0360 に基づく構造用ベニヤ

施工箇所	寸法 (mm)

・ MDF [G]

施工箇所	厚さ (mm)	表裏面の状態による区分	曲げ強さによる区分	接着剤による区分	難燃性による区分

6 接合具等 (12. 2. 2)

造作材の化粧面釘打ち ※隠し釘打ち つぶし頭釘打ち 釘頭潰し
諸金物 ※かすがい、座金、箱金物、短冊金物 (標準仕様書表12. 2. 3～表12. 2. 5に示す程度の市販品 表14. 2. 2のF種程度)

7 接着剤 (12. 2. 2) (12. 2. 3)

接着剤のホルムアルデヒドの放散量 ※F☆☆☆☆

8 防虫・防蟻処理 (12. 3. 1) (12. 3. 2)

・ 防虫、防蟻処理を省略できる樹種による製材
適用部位：
・ 薬剤の加圧注入による防虫・防蟻処理
保存処理性能区分

適用部材	K2	K3	K4
	・	・	・
	・	・	・
	・	・	・

・ 薬剤の塗布等による防虫・防蟻処理
処理の方法
・ 薬剤の種類
※ JIS K 1571に適合または同等品

・ 薬剤の接着材への混入による防虫、防蟻処理
適用部位：
・ 合板等の加圧注入処理の適用
適用部位：

9 内部間仕切軸組及び床組み (12. 4. 1)

・ 間仕切軸組に用いる木材の樹種名 (製材を用いる場合)
※ 杉または桧
・ 床組みに用いる木材の樹種名 (製材を用いる場合)
※ 杉または桧
・ 床組みに用いる木材の樹種名 (製材を用いる場合)
※ 杉または桧
・ 床組みに用いる木材の樹種名 (製材を用いる場合)
※ 杉または桧

10 窓、出入口その他 (12. 5. 1)

・ 窓、出入口その他に用いる木材の樹種名 (製材を用いる場合)
※ 吊元枠、水掛かりの下枠及び敷居はひのき、その他は杉又は桧
・ 窓、出入口その他に用いる木材の樹種名 (製材を用いる場合)
※ 杉または桧

11 床板張り (12. 6. 1)

・ 縁甲板及びあがりかまに用いる木材の樹種名 (製材を用いる場合)
※ 桧
・ 縁甲板及びあがりかまに用いる木材の樹種名 (製材を用いる場合)
※ 杉

12 壁及び天井下地 (12. 7. 1)

・ 壁脚縁、野縁受杖、野縁及び吊木に用いる木材の樹種名 (製材を用いる場合)
※ 桧
・ 壁脚縁、野縁受杖、野縁及び吊木に用いる木材の樹種名 (製材を用いる場合)
※ 杉

13章 屋根及びとい工事 (13. 2. 2) (12. 2. 3) (表13. 2. 1) (表13. 2. 2)

1 長尺金属板葺き

施工箇所	板及びビスの種類	塗膜の耐久性、めっき付着量等の種類及び記号	厚さ (mm)	屋根葺き形式	備考
	※ JIS G 3322の屋根用 着色 ・有 ・無	5類 (AZ150)	・0.4 ・0.5	・心木なし瓦葺き ・立平葺 ・蟻掛葺 ・横葺	

下葺材料：アスファルト・フィング 940
改良アスファルト・フィング 下葺材
一般タイプ 覆層材タイプ 粘着層付タイプ

横葺きの場合のけらば納め つかみ込め納め けらば包み納め
工法 1章 適用区分による風圧力の (※1) 1.15 1.3 倍の風圧力に対応した工法
耐雪性能に対応した工法の適用 適用する 適用しない
折半のけらば納め ※けらば包みによる方法
雪止め 設置する 形状及び施工箇所 図示 設置しない

2 折板葺き (13. 3. 2) (13. 3. 3)

施工箇所	形式	山高、山ピッチによる区分		耐力による区分	材料による区分	厚さ (mm)	軒先面戸板	耐火性能
		山高	山ピッチ					
	・直わね ・はせ縮め形 ・かん合形			() 種	※鋼板製 ・アミコム ・合金板製	・有 ・無	・有 ・無	・30分 ・無

※ JIS A 6514 のうち5.3 及び5.4 は適用しない
材料
折板の材質の種類 鋼板製 ※ JIS G 3322の屋根用
着色 ・有 ・無

塗膜の耐久性の種類、めっき付着量 5類 (AZ150)
断熱材張り 行う
断熱材の種類：
厚さ (mm)：
耐火性能：
防火性能：

工法 1章 適用区分による風圧力の (※1) 1.15 1.3 倍の風圧力に対応した工法
耐雪性能に対応した工法の適用 適用する 適用しない
折半のけらば納め ※けらば包みによる方法
雪止め 設置する (図示) 形状及び施工箇所 図示 設置しない

3 粘土瓦葺き (13. 4. 2) (13. 4. 3)

施工箇所	種類			産地	役物瓦の種類	雪止め瓦
	製法による区分	形状による区分	寸法による区分			
						・適用する ・適用しない ・適用しない

棟瓦の防災瓦の使用 適用する 適用しない
JIS A 5208に基づく凍害試験等 行う 行わない
瓦葺き 材質 ※杉
寸法 ※幅21×高さ15 (mm) 以上

棟補強用心材 材質 ※杉
寸法 ※幅40×高さ30 (mm) 以上

瓦葺き用釘及びねじ
種類：
径：
長さ：
棟補強等に使用する金物等
材質 ※ステンレス製
形状、寸法及び留付け方法 ※図示による

工法 1章 適用区分による風圧力の (※1) 1.15 1.3 倍の風圧力に対応した工法

風圧力又は地震力に対応した瓦の繋結方法等 ※図示
瓦葺きの留付け工法 ※図示
棟の工法 ※7寸丸伏せ棟又はF型用冠瓦伏せ棟 のし積み棟
面戸、雀口、葺土の露出すり接合部に仕上げを施す場合 ※図示
瓦葺き用しっくい

4 とい (13. 5. 2) (13. 5. 3) (表13. 5. 4)

といその他の材種
・配管用銅管
・硬質塩化ビニル管
・PVC管
・表面処理鋼板
・表面及び裏面の塗膜の種類

とい受金物 材種 ※標準仕様書13. 5. 2による (溶融亜鉛めっきを行ったもの)
形状 ※市販品 (とい径100以下)
・25x4.5 (とい径100を超えるもの)

取付間隔 ※標準仕様書13. 5. 2による
足金物 材種 ※標準仕様書13. 5. 2による (溶融亜鉛めっきを行ったもの)
形状 ※市販品
取付間隔 ※標準仕様書13. 5. 2による

多雪地帯 適用する 適用しない
防露材のホルムアルデヒド放散量 ※F☆☆☆☆
銅管製の防露巻き ※標準仕様書表13. 5. 4による
PVC製の材種その他

種別	呼び				施工箇所
	80	100	125	150	
・ろく屋根用たて形I型	※ねじ込み式	80	100	125	150
・ろく屋根用横形I型	※ねじ込み式	80	100	125	150
・バルコニー中継用	・ねじ込み式	50	80	100	
	・差し込み式	50	75	100	
	・ねじ込み式	50	80	100	
	・差し込み式	50	75	100	

14章 金属工事 (14. 2. 1) (表 14. 2. 1)

1 アルミニウム及びアルミニウム合金の表面処理 (14. 2. 1) (表 14. 2. 1)

種別	色合い等	施工箇所 (成形板、笠木、建具以外)

陽極酸化皮膜の着色方法 ※二次電解着色 ※三次電解着色

2 鉄鋼の亜鉛めっき (14. 2. 2) (表14. 2. 2)

表面処理方法	種別	施工箇所 (手すり、クワップ以外)
・溶融亜鉛めっき	・A種 ・B種 ・C種	
・電気亜鉛めっき	・D種 ・E種 ・F種	

3 軽量鉄骨天井下地 (14. 4. 2) (14. 4. 4) (表14. 4. 1)

特定天井 有 (仕様、位置は図示による) 無し
野縁等の種類
屋外 ※25形 19形
屋内 ※19形 25形

屋外の形式及び寸法
野縁受、吊りボルト及び引線の間隔 図示
周辺部の端からの間隔 図示
野縁の間隔 図示

吊りボルトの間隔が900mmを超える場合
補強方法 ※図示
天井のふところ高が3.0mを超える場合
補強方法 ※図示

天井下地材における耐震性を考慮した補強
補強箇所 図示
補強方法 ※図示

耐震性能 建築非構造部材の耐震性能に係る特記事項による
屋外の軒天上、ピロティ天井の工法
1章 適用区分による風圧力の (※1) 1.15 1.3 倍の風圧力に対応した工法

4 軽量鉄骨壁下地 (14. 5. 3) (表14. 5. 1)

スラブ、ラナの種別 ※標準仕様書表14. 5. 1によるスラブの高さによる区分に応じた種別
図示

スラブの高さが5.0mを超える場合 ※図示
出入口及びこれに準ずる開口部の補強 ※標準仕様書表14. 5. 4(5)による 図示

5 金属成形板張り (14. 6. 2) (14. 6. 3) (表 14. 2. 1)

種別	製法	形状	板幅 (mm)	板厚 (mm)	表面処理	
					種別	色合い等
・アミコム	・押し出し ・ロール ・プレス	・スパンフレット形 ・バネ形				

取付け用下地 ※標準仕様書14. 4による 図示
伸縮調整継手 設ける 図示 設けない

屋外の軒天上、ピロティ天井の工法
1章 適用区分による風圧力の (※1) 1.15 1.3 倍の風圧力に対応した工法

6 アルミニウム製笠木 (14. 7. 2) (14. 7. 3) (表 14. 2. 1) (表 14. 7. 1)

種類 250形 300形 350形
表面処理
種別 () 種
色等 標準色 () 特注色 ()

笠木の固定金具の工法等
1章 適用区分による風圧力の (※1) 1.15 1.3 倍の風圧力に対応した工法

7 エキスパンションジョイント金物

材種	防火性能	備考
・アミコム製	・50	・有り ()
・ステンレス製	・150	・無し

15章 左官工事 (15. 3. 2) (15. 3. 5)

1 モルタル塗 (15. 3. 2) (15. 3. 5)
モルタル 現場調査材料 ※既調合材料 ()
既製目地材 設ける
施工箇所 形状 ※図示
設けない
床目地 設ける
種類 ※押し目地
目地割 ※2m程度 (最大目地間隔3m程度)
設けない
屋外張り下地、屋内の吹抜け部分等の張り張りの下地モルタル塗り及び下地調整塗材塗りの接着力試験 適用する 適用しない
防水剤 品質・性能、試験方法は別表による

2 ラス系下地 (15. 2. 4)

ラス系下地
・二層下地通気構法
・単層下地通気構法
・換気口部の防水処理 ※公共木造建築工事標準仕様書11. 4. 3(2) ()
・直張りラスモルタル下地
・直張りラスモルタル下地
・耐力壁、防火構造、準防火構造等の指定
ラスの材料
種類及び記号：
単位面積当たりの質量：
ラスの材料
サイズによる区分 ※M
山高、山ピッチ、質量及び溶接区分による区分 ※LS4(建築基準法に基づく耐力壁)
ラスの形状及び寸法：
直張りラスモルタル下地で建築基準法に基づく耐力壁のラスの施工：

3 セッコウボード、その他のボード下地 (15. 2. 5)

セッコウボード及びセッコウラスボードの種類及び厚さ
種類 GB-R GB-L
厚さ (mm)：
木質系ボードの種類及び厚さ
種類：
厚さ (mm)：

4 こまい下地 (15. 2. 6)

建築基準法に基づく耐力壁の指定 あり なし

5 木ずり下地 (15. 2. 7)

木ずり用小板板の種類 ※杉(芯去り材)

6 仕上塗材仕上げ (15. 6. 2)

内装仕上げに用いる素材のホルムアルデヒド放散量 ※F☆☆☆☆
仕上塗材の種類
薄付け仕上塗材

種類 (呼び名)	仕上げの形状	工法	吸放湿性	防火材料
			・適用する	

種類 (呼び名)	仕上げの形状	工法	吸放湿性	上塗り	防火材料
			・適用する	・適用する	

種類 (呼び名)	仕上げの形状	工法	上塗材の種類	耐水性	防火材料
			樹脂	・耐候型 1種	
			外観	・耐候型 2種	
			溶媒	・耐候型 3種	

種類 (呼び名)	防火材料

種類 (呼び名)	防火材料

7 マスチック塗材塗り (15. 7. 2)

種別 A種 B種

8 ロックウール吹付け (15. 12. 2) (15. 12. 3)

ロックウールのホルムアルデヒド放散量 ※F☆☆☆☆
接着剤のホルムアルデヒド放散量 ※F☆☆☆☆
仕上げ吹付け厚さ (mm) 図示 25

9 しっくい塗り (15. 10. 2) (15. 10. 3) (15. 10. 4)

しっくい ※既調合材料
色しっくい 適用する 適用しない
現場調査材料
せっこうボード ※モルタル塗り 木ずり
こまい土壁塗り 下塗りをせっこうラスボードとし上塗りに使用する場合

既調合しっくいの調査 ※せっこうボード下地
※標準仕様書表15. 10. 1
※モルタル塗り下地
※標準仕様書表15. 10. 2
※せっこうボード下地
※製造所の仕様による

現場調査しっくいの調査及び各層の塗厚 ※木ずり下地
※標準仕様書表15. 10. 3
※せっこうラスボード下地
※標準仕様書表15. 10. 4

既調合しっくいの上塗り仕上げ工法 ※なで切り仕上げ ※ベネジ仕上げ

2 メタルカーテンウォール (17. 2. 2) (17. 2. 3) (17. 2. 5) (17. 2. 6)

金属系材料の種類 **※** アルミ材 **※** 鋼材 **※** ステンレス鋼材

シート材の種類(目地等)
種類及び寸法等 **※** 図示

ガラスの取付け材料 **※** シーリング

種類 **※** SR-1 **※** SR-1

構造用ガラス
形状・寸法等 **※** 図示

断熱材[G]
種類及び範囲 **※** 図示

形状及び仕上げ
製品の寸法許容差 **※** 標準仕様書表17.2.1による

見え掛かり部の仕上げ
(アルミ材の場合)
規格等 標準仕様書16.2.3による

種類 **※** (標準仕様書14.2.1)

着色 **※** 標準色 **※** 特注色
(鋼材及びステンレス鋼材の場合)

ガラスの寸法、形状 **※** シーリングの製造所の仕様

取付け
躯体付け金物の取付け位置の寸法許容差
鉛直方向 **※** ±10mm
水平方向 **※** ±25mm

シーリング部材の取付け位置の寸法許容差
目地の幅 **※** ±3mm
目地の心の通り **※** 0~2mm
目地の両側の段差 **※** 0~2mm
各階の基準墨から各部位までの距離 **※** ±3mm

耐火処理
適用部位、材料等 **※** 図示

ガラスの取付け材料
ガラスの取付け材料がシーリングの場合のガラスの支持方法 **※** 4辺支持

3 PCカーテンウォール (17. 3. 2) ~ (17. 3. 5) (表17. 3. 1) (表17. 3. 2)

材料
コンクリート
種類 **※** 普通コンクリート **※** 軽量コンクリート1種

品質
設計基準強度F_c **※** 30N/mm²
スパン **※** 12cm
気乾単位容積質量
普通コンクリートの場合 2.1t/m³を超え2.5t/m³以下
軽量コンクリートの場合 1.8t/m³~2.1t/m³

単位水量の最大値 **※** 185kg/m²

鉄筋
種類の記号 **※** SD295A

補強鉄線
径 (mm) **※** 3.2 **※** 4.0 **※** 5.0 **※** 6.0

網目寸法

シート材の種類(目地等)
種類及び寸法等 **※** 図示

ガラスの取付け材料
構造用ガラス
形状・寸法等 **※** 図示

耐火処理
適用部位、材料等 **※** 図示

断熱材[G]
種類
先付けの材料
表面仕上材
モルタル
建具枠
コーキング剤

形状及び仕上げ
製品の見え掛かり部の寸法許容差
辺長 **※** ±3mm
対角線長の差 **※** 0~5mm
板厚 **※** ±2mm
開口部内法寸法 **※** ±2mm
ねじれ、反り **※** 0~5mm
曲がり **※** 0~3mm
面の凹凸 **※** 0~3mm
先付け金物の位置 **※** 0~5mm

PCシーリングの仕上げ
構造用ガラスを用いる場合のアンコ溝の寸法及び寸法許容差(mm) **※** 図示

製作
PC版の配筋 **※** 図示

取付け
躯体付け金物の取付けの寸法許容差
鉛直方向 **※** ±10mm
水平方向 **※** ±25mm

シーリング部材の取付け位置の寸法許容差
目地の幅 **※** ±5mm
目地の心の通り **※** 0~3mm
目地両側の段差 **※** 0~4mm
各階の基準墨から各部位までの距離 **※** ±5mm

ガラスの取付け方法
ガラスの取付け材料が構造用ガラスで複層ガラス等を使用する場合は排水機能の設置及びガラスの封着処理の強化を行う

18章 塗装工事 (18. 1. 3)

1 材料
屋内で使用する塗料のVOC放散量 **※** F☆☆☆☆
防火材料 **※** 屋内の壁、天井仕上げは防火材料とする
※ 次の箇所を除き防火材料とする
箇所

2 素地ごしらえ (18. 2. 2) ~ (18. 2. 7)

下地面等		種別	
木部	不透明塗料塗りの場合	※ A種	※ B種
	透明塗料塗りの場合	※ B種	※ A種
鉄鋼面	DP	※ C種	※ A種 ※ B種
	DP以外	※ B種	※ A種 ※ C種
亜鉛めっき鋼面		※ A種	※ B種
モルタル面及びせつこうラス面		※ B種	※ A種
コンクリート面(DP以外)及びALCパネル面		※ B種	※ A種
押出成形シート板面		※ B種	※ A種
コンクリート面(DP面)		※ B種	※ A種
せつこうボード面及びその他ボード類	目地：継目処理工法	※ A種	※ B種
	目地：継目処理工法以外	※ B種	※ A種

3 錆止め塗料塗り (18. 3. 2) (18. 3. 3)

下地面等		塗料の種類	錆止め塗料の種類	錆止め塗料塗りの工程
鉄鋼面	SOP	A種	見え掛かり：A種 見え隠れ：B種	表18.3.4
	DP	C種及びD種	見え掛かり：A種 見え隠れ：B種	表18.3.6
	EP-G	※ B種	見え掛かり：A種 見え隠れ：B種	表18.3.6
亜鉛めっき鋼面	SOP	※ A種 ※ B種	鋼製建具等：A種 上記以外：B種	表18.3.6
	DP	B種	鋼製建具等：A種 上記以外：B種	表18.3.6
	EP-G	C種及びD種	鋼製建具等：A種 上記以外：B種	表18.3.6

4 塗装 (18. 4. 1) ~ (18. 12. 2)

塗装	種別	塗料の種類	高日射反射率塗料[G]
合成樹脂塗合	木部屋外	※ A種 ※ B種	—
ペイント塗り(SOP)	木部屋内	※ B種 ※ A種	—
	鉄鋼面	※ B種 ※ A種	—
	亜鉛めっき鋼面	—	適用する
アクリル塗(CL)	鉄鋼面	※ B種 ※ A種	—
アクリル樹脂系非水分散型塗料塗り(NAD)	鉄鋼面	※ B種 ※ A種	—
耐候性塗料塗り(DP)	鉄鋼面	—	適用する
	亜鉛めっき鋼面	—	適用する
	コンクリート面及び押出成形シート板面	※ A種 ※ B種 ※ C種	—
つや有合成樹脂エマulsionペイント塗り(EP-G)	コンクリート面 モルタル面 アクリル面 せつこうボード面 その他のボード面等	※ B種 ※ A種	—
	屋内の鉄鋼面	※ B種 ※ A種	—
	鉄鋼面	—	—
	亜鉛めっき鋼面	—	—
合成樹脂エマulsionペイント塗り(EP)	鉄鋼面	※ B種 ※ A種	—
アルキ樹脂ニス塗り(LC)	鉄鋼面	※ B種 ※ A種	—
シリコン塗り	鉄鋼面	※ B種 ※ A種	—
木材保護塗料塗り(WP)	木材	※ B種 ※ A種	—

高日射反射率塗料[G]を適用する場合の適用箇所は屋上、屋根面の金属面とする。
アクリル塗A種の工程2の適用

水性アクリル系樹脂塗料
材質 **※** 標準色

仕上種別 コーティング(ロー刷毛塗り)
塗布量 主剤2回塗とし、総塗布量は0.25kg/m²以上とする。
金属製屋根面に塗装する場合の塗料はJIS K 5675に適合する資材とする。種別、工程及び塗付量は図示による。

19章 内装工事 (19. 2. 2)

1 接着剤
ビニルシート、ビニル床材、ゴム床材用接着剤のVOC放散量 **※** F☆☆☆☆
施工箇所の下地がセメント系下地及び木質系下地以外の場合の接着剤の種類 **※** 図示

2 下地の工法
標準仕様書19.2.3(1) (ア)~(イ)以外の下地の工法 **※** 図示

3 ビニルシート[G] (19. 2. 2) (19. 2. 3)

種類の記号	色柄	厚さ(mm)	備考
※ FS(複層ビニルシート)	無地 マツバ柄 柄物	2.0	

接合部の処理 **※** 熱溶接工法

4 ビニル床タイル[G] (19. 2. 2)

種類の記号	色柄	寸法(mm)	厚さ(mm)	備考
TT(単層ビニル床タイル)	無地	300×300	※ 2.0	
FT(複層ビニル床タイル)	柄物	450×450	2.5	
※ KT(コブシシジビニル床タイル)		500×500	3.0	
FOA(震式ビニル床タイル)				
FOB(薄型置き敷きビニル床タイル)				

5 特殊機能床 (19. 2. 2)

帯電防止シート
種類 **※** A種 **※** B種
性能 **※** A種 **※** B種
厚さ(mm) **※** A種 **※** B種

帯電防止床材
種類 **※** A種 **※** B種
性能 **※** A種 **※** B種
寸法 **※** A種 **※** B種
厚さ(mm) **※** A種 **※** B種

視覚障害者誘導用床材
視覚障害者誘導用床材の突起の形状・寸法及びその配列はJIS T 9251による

種類 **※** A種 **※** B種
形状 **※** A種 **※** B種

自動荷重性床材
種類 **※** A種 **※** B種
厚さ(mm) **※** A種 **※** B種

防滑性床材
種類 **※** A種 **※** B種
厚さ(mm) **※** A種 **※** B種

防滑性床材
種類 **※** A種 **※** B種
厚さ(mm) **※** A種 **※** B種

6 ビニル幅木 (19. 2. 2)

種類 **※** 硬質 **※** 軟質
高さ(mm) **※** 60 **※** 75 **※** 100
厚さ(mm) **※** 1.5以上

7 ゴム床タイル (19. 2. 2)

種類 **※** 単層品 **※** 積層品
色柄 **※** A種 **※** B種
厚さ(mm) **※** 3.0 **※** 4.5 **※** 6.0 **※** 9.0
寸法(mm) **※** A種 **※** B種

8 カーペット敷き (19. 3. 2) (19. 3. 3) (表19. 3. 1) (表19. 3. 2)

織り方		バイン形状	
ウレシカカーペット	※ カットバイン	無地の織り	無地の織り
ターミネーションカーペット	※ ループバイン	無地の織り	無地の織り
アシスタンスカーペット	※ カット、ループ併用	無地の織り	無地の織り

色柄 **※** 模様の無い無地
バイン糸の種類等 **※** 無地の織り じゅうたんの種別
A種 **※** B種 **※** C種

帯電性 **※** 適用する **※** 適用しない
織りじゅうたんの接合方法 **※** ヒートドット工法 **※** つづり縫い
下敷き材 **※** 反毛フェルト(JIS L 3204)の第2種2号 呼び厚さ 8mm

ターミネーションカーペット
バイン形状 **※** A種 **※** B種
寸法(mm) **※** 5~7
工法 **※** 全面接着工法 **※** 適用する
カット、ループ併用 **※** カット、ループ併用 **※** 適用しない
下敷き材(ターミネーション工法の場合) **※** 反毛フェルト(JIS L 3204)の第2種2号 呼び厚さ 8mm

ターミネーションカーペット用接着剤のVOC放散量 **※** F☆☆☆☆

ターミネーションカーペットのバイン形状 **※** A種 **※** B種
種類 **※** A種 **※** B種
施工箇所 **※** A種 **※** B種
寸法(mm) **※** 500×500
総厚さ(mm) **※** 6.5

ターミネーションカーペット用接着剤のVOC放散量 **※** F☆☆☆☆

ターミネーションカーペットの敷き方
平場 **※** 市松敷き **※** 模様なし **※** 市松敷き
階段部分 **※** 模様なし **※** 市松敷き

見切り、押え金物
材質 **※** A種 **※** B種
種類 **※** A種 **※** B種
形状等 **※** 図示

9 合成樹脂塗床 (19. 4. 2) (19. 4. 3) (表19. 4. 4) (表19. 4. 5) ~ (表19. 4. 8)

種別	施工箇所	工法	仕上げの種類
厚膜型塗床材			※ 平滑仕上げ ※ 防滑仕上げ ※ つや消し仕上げ
弾性汎用樹脂系塗床材			※ 平滑仕上げ ※ 防滑仕上げ
厚膜型塗床材		薄膜流し膜工法	※ 平滑仕上げ
弾性汎用樹脂系塗床材		厚膜流し膜工法 樹脂モルタル工法	※ 平滑仕上げ
薄膜型塗床材			※ 平滑仕上げ

塗床材のVOC放散量 **※** F☆☆☆☆

10 フローリング張り (19. 5. 2) ~ (19. 5. 6) (表19. 5. 1) ~ (表19. 5. 6)

フローリングのVOC放散量等 **※** 標準仕様書19.5.2(2)による
各工法に使用する接着剤のVOC放散量 **※** F☆☆☆☆

単層フローリング(フローリングボード1等)
工法 **※** 釘留め工法 **※** 根太張り **※** 直張り
※ 接着工法

樹種 **※** A種 **※** B種 **※** C種
開伐材の適用 **※** 適用する **※** 適用しない

単層フローリング(フローリングボード1等)
樹種 **※** A種 **※** B種 **※** C種
厚さ **※** A種 **※** B種 **※** C種
大きさ **※** A種 **※** B種 **※** C種
開伐材の適用 **※** 適用する **※** 適用しない

複合フローリング
工法 **※** 釘留め工法 **※** 根太張り **※** 直張り
※ 接着工法

樹種 **※** A種 **※** B種 **※** C種
開伐材の適用 **※** 適用する **※** 適用しない
接着工法の場合の裏面緩衝材 **※** 合成樹脂発泡シート

11 畳敷き (19. 6. 2) (表19. 6. 1)

種別 **※** A種 **※** B種 **※** C種 **※** D種(畳床KT-**※** I **※** II **※** III **※** K **※** N)
下地の種類 **※** 標準仕様書12.6.1による床組み
※ リスリッパ床下地(フローリング)

畳表及び畳床は44767バイン、74767バイン及びフスチンを敷かないか、発散がきわめて少ない材料を使用したものとする。

12 せつこうボードその他ボード及び合板張り (19. 7. 2) (19. 7. 3) (表19. 7. 1)

種類等	厚さ(mm)、規格等
木毛セメント板[G] 木毛シート板 硬質(MH) ※ 中質(MW) ※ 普通(NW) ※ 図示	15 ※ 20 ※ 25
木片シート板 硬質(MH) ※ 普通(NF) ※ 図示	12 ※ 15 ※ 18 ※ 21 ※ 30
繊維強化シート板 けい酸強化板(ケイ2) 普通ボード0.8FK ※ 図示	6 ※ 8
火山性ガラス質複層板 火山性ガラス質複層板 ※ 図示	
繊維強化板[G] 繊維強化ボード(MDF) ハードボード ※ 図示	3 ※ 7 ※ 9 ※ 12 2.5 ※ 3.5 ※ 5 ※ 7
スクラップボード(無処理) 表地ハードボード 未研磨板(RN) 研磨板(RS) 内装用化粧ボード(DI) 外装用化粧ボード(処理) 未研磨板(RN) 研磨板(RS) 外装用化粧ボード(DE)	
インヴェンションボード ※ 図示	9 ※ 12 ※ 15 ※ 18
高級インヴェンションボード(A-1B) 天井仕上げ材 内装仕上げ材	
単板張りパーティクルボード ※ 図示	10 ※ 12 ※ 15 ※ 18
無研磨板(VN) 研磨板(VS)	
化粧パーティクルボード ※ 図示	10(難燃) ※ 12(難燃)
単板パーティクルボード(DV) プラスチックパーティクルボード(DO) 塗装(DC)	
吸音材料 ロックウール化粧吸音板(OR) フラットライ 凹凸ライ	9(不燃) ※ 12(不燃) 15(不燃) ※ 18(不燃)
ロックウール吸音ボード(1号) グラスウール吸音ボード(32K)	※ 図示 ※ 25 ※ 25(グラスウール包み)
せつこうボード せつこうボード(GB-R) ※ 図示	12.5(不燃) ※ 15(不燃) 12.5 ※ 不燃 ※ 準不燃
強化石膏ボード(GB-F) ※ 図示	12.5(不燃) ※ 15(不燃)
化粧せつこうボード(GB-D) ※ 図示	木目 12.5(不燃) 幅440mm程度 模様 ※ 柾目 ※ 板目 専用下地材有り クランプ仕様 9.5(準不燃)
せつこうボード(GB-L) ※ 図示	9.5
不燃積層せつこうボード(GB-NC) 化粧無し(下地張り用) 化粧有り(クランプ仕様)	9.5(不燃)
合板類 普通合板[G] 裏面の樹種名 板面品質 防虫処理 ※ 行方 ※ 行わない	※ 図示
天然木化粧合板[G] ※ 図示	
化粧板の樹種名 防虫処理 ※ 行方 ※ 行わない	※ 図示
特殊加工化粧合板[G] ※ 図示	
化粧加工の方法 オーナメント ※ プリント ※ 塗装 表面性能 ※ A種 ※ B種 防虫処理 ※ 行方 ※ 行わない	

天井のボード類(ロックウール吸音板を除く)の重ね張りを行う場合 **※** 図示

合板類の張付け **※** A種 **※** B種
せつこうボードの目地工法等 **※** 仕上表による
突付け工法及び目隠し工法のエッジの種類 **※** ベベルエッジ **※** ステップエッジ
天井又は壁に使用する合板は、関係法令により求められる場合のみ、建築基準法に基づく防火材料の指定又は認定を受けたものとする。

13 壁紙張り (19. 8. 2) (18. 8. 3)

施工箇所	壁紙の種類				防火種別		備考
	紙	繊維	強化ビニル	無機質	その他		
						不燃 ※ 準不燃	
						不燃 ※ 準不燃	
						不燃 ※ 準不燃	
						不燃 ※ 準不燃	

モルタル、プaster面の素地ごしらえ **※** B種 **※** A種
コンクリート面の素地ごしらえ **※** B種 **※** A種
せつこうボード面の素地ごしらえ **※** B種 **※** A種

14 断熱材[G] (19. 9. 2) ~ (19. 9. 4)

フォーム断熱材、保温材又は接着剤のVOC放散量 **※** F☆☆☆☆
開口部等補修のための張付け用の接着剤のVOC放散量 **※** F☆☆☆☆

断熱材打込み工法

種類	厚さ(mm)	施工箇所
ビーズ法ポリスチレン断熱材		
押出法ポリスチレン断熱材(セルラナシ)		
2種bA ※ 3種bA ※ 3種bC ※ 3種bD		
硬質ウレタンフォーム断熱材		
フォーム断熱材		
断熱材現場発泡工法 断熱材の種類 ※ A種1 ※ A種1H 吹付け厚さ(mm) ※ 図示 施工箇所 ※ 図示 (品質、性能、試験方法は別表による)		

20章 ユニット及びその他工事

1 フリーアクセスフロア (20. 2. 1)
表: 施工箇所、工法、寸法(mm)、高さ(mm)、耐震性能、所定荷重(N)、表面仕上材、備考

寸法精度
標準仕様書20. 2. 2(2)(4)(a)～(c)による
以下による
ハネ長さの寸法精度
ハネの平面形状(角度)の寸法精度
フアワエワエの高さの寸法精度
帯電防止性能
感電防止性能
(品質・性能、試験方法は別表による)

2 可動間仕切 (20. 2. 3)
表: 構造形式による種類、構成基材の種類、ハネ表面仕上げ、遮音性(dB/500Hz)、防火性能

ハネ内に取付ける建具
あり
なし

ハネ内に取付ける家具のドアノブ、丁番、錠前、上げ落としは、標準仕様書16章8節の建具用金物に対応する材質とする。
表面仕上げ材を壁紙張りとする場合の品質、性能は標準仕様書19章による。
ハネ材料の放熱放出量

3 移動間仕切 (20. 2. 4)
表: 走行方向、操作方式による種類、操作方式による種類、ハネ圧接装置の操作方式、総厚さ(mm)、ハネ表面材(材質、仕上げ)、遮音性(dB/500Hz)

ハネ表面仕上げ材の壁紙張りの品質、性能は標準仕様書19章による。
ハネの取付け下地の補強
取付け全重量の5倍以上の荷重に対して、使用上支障のない耐力及び変形量となるように補強する
ハネをラナに取り付ける部品
ラナに加わる重量の5倍以上の荷重に耐えられるもの
ハネレール及びラナ
ハネ重量の5倍の荷重を、ハネ1枚に使用するラナ数で除した値に対して、耐力及び変形量が使用上支障のないもの
(品質・性能は別表による)

4 トイレブース (20. 2. 5)
表: 表面材の材料、脚部種類、ドア材料

5 手すり (20. 2. 6)
材料の種類及び仕上げ
SUS304
表面処理
鋼製 表面処理
表面処理(標準仕様書14. 2. 2)による種別
ハネレール
表面処理(標準仕様書14. 2. 1)による種別
色合等
手すりの握り部分

表: 材質、表面仕上げ、直径(mm)、取付箇所、備考

6 階段滑り止め (20. 2. 7)
材質
形状
端部の形状
寸法(幅)
取付け工法

7 黒板及びホワイトボード (20. 2. 9)
黒板
区分
種類
色
ホワイトボード

8 鏡 (20. 2. 10)
取付箇所
寸法(mm)
厚さ(mm)

9 表示 (20. 2. 11)
衝突防止表示
設置する
設置場所
形状・寸法
材質
設置しない

誘導標識、非常用出入口等の表示
消防法に適合する市販品
室名札、ヒコケラ、案内板等の形状、寸法、材質、色、書体、印刷等の種別、取付け形式等
(案内用図記号はJIS Z 8210による)
図示

10 タラップ (20. 2. 12)
材質及び仕上げ
SUS304
スリップ止め加工
鋼製 表面処理
溶融亜鉛めっき
標準仕様書14. 2. 2)による種別

11 煙突突出部 (20. 2. 13)
適用安全使用温度
工法
鋼製ニット煙突(煙突用成形リング材)

12 ブラインド (20. 2. 14)
表: 形式、操作方式、操作方式の種類、スラットの種類、スラット幅(mm)、ガラスレールの材質、幅・高さ、取付箇所

縦型ブラインドのスラットの材質
ガラスレール 焼付け塗装仕上げ
ガラスレール 消防法で定める防火性能の表示がある特殊樹脂加工
ガラス繊維又は植物を原料とする合成繊維を使用した製品を使用する場合は[G]とする。

13 ロールスクリーン (20. 2. 15)
表: 操作方式、スクリーンの材質、その他の材料、幅・高さ、取付箇所、品質

14 カーテン (20. 2. 16)
表: 形式、開閉操作、ひだの種類、生地の種類、品質、特殊加工等、取付箇所、備考

生地の仕様
消防法で定める防火性能の表示があるもの
ガラス繊維又は植物を原料とする合成繊維を使用した製品を使用する場合は[G]とする。
暗幕タイプの両端、上部及び召合せの重なり
300mm以上

15 カーテンレール (20. 2. 16)
材料による区分
強さによる区分
仕上げ
形状

16 ブラインドボックス及びカーテンボックス (20. 2. 16)
溝型x深さ(mm)
材質
集合材
仕上げ
繊維
押出し型材(市販品)
標準仕様書14. 2. 1)による種別
色合い
標準色
特注色
鋼製
仕上げ

17 天井点検口 (20. 2. 7)
表: 材質、寸法、形式、内枠、外枠、内枠

18 床点検口 (20. 2. 7)
表: 材質、寸法、形式、備考

19 耐震スリット (20. 2. 7)
表: 方向、幅(mm)、タイプ、耐火性能、防水性能、備考

20 止水板 (20. 2. 10)
形式
施工箇所

21 エキスパンションジョイント金物 (20. 2. 11)
建築非構造部材の耐震性能に係る特記事項による。

22 くつふきマット (20. 2. 11)
表: 材質、受け枠、備考

23 流し台ユニット (20. 2. 11)
表: 材質、寸法(mm)、備考

品質・性能
外観は、JIS A 4420「キッチン設備の構成材」の4.1)による。
構成材は、JIS A 4420の8)により試験を行ったとき、表1の規定による。
形状

24 旗竿 (20. 2. 11)
表: 材質、形式、高さ(m)、操作方法、固定方法、備考

25 旗竿受金物 (20. 2. 11)
ステンレス製(SUS304)

26 車止めさく (20. 2. 11)
表: 形式、材質、柱径、肉厚(mm)、高さ(m)

27 フェンス (20. 2. 11)
フェンスの種類
高さ

28 プレキャストコンクリート (20. 3. 3)(20. 3. 4)
コンクリートの設計基準強度
水セメント比55%以下、単位セメント量の最小値300kg/m3を満足する調合強度
配筋
取付け方法

29 間知石及びコンクリート間知ブロック積み (20. 2. 11)
表: 種類、種類、質量区分、備考

積み方
目調整
伸縮調整目地
材質
厚さ

30 鋼製書架及び物品棚 (20. 2. 11)
表: 種類、規格等、JISによる種類

31 屋内掲示板 (20. 2. 11)
枠の材質
表面の材質

32 洗面カウンター (20. 2. 11)
材質
奥行き(mm)

33 防煙垂れ壁 (20. 2. 11)
固定式
材質
厚さ(mm)
高さ(mm)

34 屋外掲示板 (20. 2. 11)
表: 種類、材質、高さ(mm)、備考

35 収納家具 (20. 2. 11)
合板類、MDF及びパーティクルボードの放熱放出量
材質、形状、寸法

21章 排水工事

1 屋外雨水排水 (21. 2. 1)(21. 2. 2)(表21. 2. 1)(表21. 2. 2)
表: 材質、管の種類、形状、呼び径、備考

基礎の厚さ及び種類
硬質塩化ビニール管の継手に用いる材料
埋土の形状及び寸法
埋土の種類
砂利地帯に用いる材料
砂利地帯に用いる材料
現場打ちの場合のコンクリート材料
現場打ちの場合の鉄筋
現場打ちの場合の鉄筋
種類
排水溝が現場打ちの場合の足掛け金物
標準仕様書21. 2. 2(6)(4)
材料
凍上抑制層に用いる材料
砂を用いる場合の粒度試験

2 鋼鉄製ふた (21. 2. 1)
表: 名称、種類、適用荷重、鍵、備考

3 グレーティング (21. 2. 1)
表: 材質、形式、用途、適用荷重、目、垂始めつき(付着量)、上面形状

4 街きよ、緑石及び側溝 (21. 3. 1)(21. 3. 2)(表21. 3. 1)
街きよ、側溝
種類
形状、寸法
緑石
L形側溝
U形側溝
U形側溝ふた
地帯の材料
砂利地帯に用いる材料
砂利地帯の厚さ(mm)
現場打ちの場合のコンクリート材料
現場打ちの場合の鉄筋
凍上抑制層に用いる材料
砂を用いる場合の粒度試験

5 埋戻し土 (21. 2. 1)
B種

22章 舗装工事 (22. 2. 2)(22. 2. 3)(22. 2. 4)(22. 2. 5)(表22. 2. 1)
1 路床 (22. 2. 2)(22. 2. 3)
路床の材料
種類
材料
厚さ(mm)
盛土
凍上抑制層
フレック層

2 路盤 (22.3.2) (22.3.3) (表22.3.1)

- 路盤の厚さ
路盤材料(標準仕様書表22.3.1による種別)
・クワンソウ
・粒度調整砕石
・再生クワンソウ[G]
・再生粒度調整砕石[G]
・クワンソウ鉄鋼スラグ[G]
・粒度調整鉄鋼スラグ[G]
・水硬性粒度調整鉄鋼スラグ[G]

3 アスファルト舗装 (22.4.2)～(22.4.6) (表22.4.4)

- アスファルト舗装の構成及び厚さ
材料
アスファルト
再生アスファルト[G]
標準仕様書表22.4.1による種別
骨材
道路用砕石
アスファルトコンクリート再生骨材[G]
加熱アスファルト混合物等の種類
舗装の平坦性
試験

4 コンクリート舗装 (22.5.2)～(22.5.4) (22.5.6) (表22.5.1) (表22.5.3)

- コンクリート舗装の構成及び厚さ
舗装の種類
コンクリート舗装
材料
コンクリート
早強ポルトランドセメント
目地
舗装の平坦性

5 カラー舗装 (22.6.2) (22.6.3) (22.6.4)

- 加熱系カラー舗装
構成・厚さ
加熱系混合物の結合材
添加剤
着色骨材
常温系カラー舗装
着色部の下部
舗装の平坦性

6 透水性アスファルト舗装 (22.7.2) (22.7.3) (22.7.6)

- 舗装の構成
材料
骨材
舗装の平坦性
試験

7 ブロック系舗装 (22.8.2) (22.8.3)

- コンクリート平板舗装[G]
種類
普通平板(N)
透水平板(P)
保水性平板(M)
インテロッキングブロック舗装[G]
種類
普通ブロック(N)
透水性ブロック(P)
保水性ブロック(M)

8 舗石舗装 (22.9.2)

Table with 6 columns: 種類, 形状・寸法, 厚さ, 貼り方, 基層, 基層の厚さ. Includes rows for 小舗石(花こう岩) and 砂.

9 路面表示用塗料 (22.9.2)

Table with 5 columns: 種類, 施工, 適用, 色, 幅(mm), 塗布厚さ(mm). Includes rows for 3種1号, 1種[G], 2種[G].

23章 植栽及び屋上緑化工事 (23.1.3)

1 植栽地の確認等 (23.1.3)

土壌の水素(わ)濃度指数(pH)試験
水溶性塩類(EC)の試験

2 植栽基盤の整備 (23.2.2) (23.2.4)

Table with 5 columns: 植栽, 工法, 有効土層の厚さ(mm), 整備範囲, 土壌改良材. Includes rows for 樹木 and 芝、地被類.

3 植込み用土 (23.2.3)

※ 現場発土の良質土 各土

4 土壌改良材 (23.2.3)

- 種類及び指定量等
バーク堆肥[G]
使用量(植栽基盤面積1m2あたり)
汚泥発酵肥料(下水汚泥コンポスト)

5 樹木 (23.2.2) (23.3.2)

樹種、寸法、株立数等

6 支柱 (23.3.2) (23.3.3)

- 支柱材
防露処理方法
形式

7 幹巻き用材料 (23.3.2)

材料

8 芝 (23.4.2) (23.4.3)

- 種類
芝張りの工法
平地
法面

9 吹付けは種 (23.4.2) (23.4.3)

Table with 4 columns: 種子の種類, 発芽率, 種子の量(g/m2), 備考.

10 地被類 (23.4.2)

Table with 4 columns: 樹種, コンテナ径, 単位面積当たりのコンテナ数, 芽出数.

11 新植、芝等の枯保証、移植樹木の枯損処置 (23.3.4) (23.3.6) (23.4.7)

新植樹木(芝張り、吹付けは種及び地被類を含む)の枯損償の期間
移植樹木の枯損処置を行う期間

12 屋上緑化[G] (23.5.2)～(23.5.4)

- 植栽基盤及び材料
屋上緑化パフォーム
土壌層の厚さ
排水層
植込み用土
樹木、芝及び地被類の樹種又は種類、寸法、株立数等
支柱
かん水装置
工法

24章 その他 (23.5.2)～(23.5.4)

1 残土処理について (23.5.2)～(23.5.4)

建設発生土処分については沼津市指定処分とする。
処分受け入れ業者については下記業者より選定し、施工計画書に明記すること。

- 建設発生土受入業者
・駿河開発株式会社
・株式会社東土建
・株式会社伊豆美化企画
・有限会社A-LINE建設
・株式会社加藤建材

2 提出書類 (23.5.2)～(23.5.4)

- 適用範囲
1 現場代理人通知書
2 予定工程表
3 請負代金内訳書
4 工事カルテに係る書類
5 施工体制台帳
6 施工計画書
7 主要材料発注承諾願
8 施工承諾図
9 工事工程月報(予定工程を黒、実施工程を朱書きで記入)
10 完成届出書
11 完成写真帳(完成前後を左右にして確認できるよう整理)
12 請負工事関係書類整備状況調査書
13 実施工程表(予定工程を黒、実施工程を朱書きで記入)
14 工事記録簿
15 材料検査簿
16 工程写真帳
17 試験表
18 諸音序手続きの写し
19 再生資源利用計画書(実施書)
20 産業廃棄物に関する書類(マニフェスト等)
21 ※原則、マニフェストは電子とする。
22 完成図
23 その他の書類

25章 工事カルテ特記仕様書 (23.5.2)～(23.5.4)

- 工事カルテ特記仕様書
1 受注者は、受注時または変更時において工事請負代金額が500万円以上の工事について、工事実績情報サービス(CORINS)に基づき、受注・変更・完成・訂正時に工事実績情報として「登録のための確認のお願い」を作成し、監督職員の確認を受けたうえ、受注時は契約後、土曜日、日曜日、祝日等を除き10日以内に、登録内容の変更時は変更があった日から土曜日、日曜日、祝日等を除き10日以内に、完成時は工事完成後10日以内に、訂正時は適宜、登録機関に登録しなければならない。登録対象は工事請負代金額500万円以上の全ての工事とし、受注・変更・完成・訂正時にそれぞれ登録するものとする。
2 契約金額の変更登録は、完成時のみとする。
3 契約変更により工事請負代金額が500万円未満になった場合は、速やかに契約変更前の工事登録を削除しなければならない。

26章 重要事項 (23.5.2)～(23.5.4)